

日韓ユース・カンファレンス 2019 報告書

Korea-Japan Youth Conference 2019

ミソジニーと日韓 #MeToo 運動ー東アジアの女性たちの連帯に向けて



日程: 2019年1月17日(金)～20日(月)

開催地: 韓国 YWCA 会館 (韓国・ソウル)

企画・実施: 日本 YWCA 日韓ユース・カンファレンス実行委員会

主催: 公益財団法人日本 YWCA

〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台 1-8-11 東京 YWCA 会館 302 号室

TEL: 03-3292-6121 Email: office-japan@ywca.or.jp <http://www.ywca.or.jp>

* 本プログラムは、一般財団法人大竹財団の助成を受けています。

Table of contents

03_ 日韓ユース・カンファレンスとは

03_ 会場

03_ タイムテーブル

06_ プログラム報告

- 全体概要：06_
- 1月17日(金)
 - ・ 開会・アイスブレイキング：07_
 - ・ 基調講演：08_
 - ・ 韓国 YWCA によるナショナルレポート発表：14_
 - ・ 日本 YWCA によるナショナルレポート発表：17_
 - ・ 韓国 YWCA による文化交流：18_
- 1月18日(土)
 - ・ ジェンダー平等図書館“Yeogi”：20_
 - ・ 「戦争と女性の人権博物館」見学：21_
 - ・ 「ミッションプロジェクト」街にある性差別的な広告・表現を探し歩く：24_
 - ・ 日本 YWCA による文化交流：25_
- 1月19日(日)
 - ・ ワークショップⅠ(日韓 YWCA のアクションプラン作成)：26_
 - ・ ワークショップⅡ(CSW64(第64回国連女性の地位委員会)パラレルイベントの企画)：27_
 - ・ 明洞探検：29_
- 1月20日(月)
 - ・ ワークショップⅢ(アクションプランの決定・次回のテーマ決め)：31_

34_ 参加者の「声」

36_ フィールドワーク先について

日韓ユース・カンファレンスとは

日本と韓国のユース(30 歳以下)メンバーが寝食を共にしながら、日韓共通の課題に取り組む草の根の対話・交流プログラムです。1993 年に初めて開催されて以来、韓国・日本を毎年交互に会場として、平和を創造するユースのリーダーシップ育成に貢献してきました。

会場

日程	会場
1 月 17 日 (金)	Seoul N Hotel Dongdaemoon
1 月 18 日 (土)	National YWCA of Korea (韓国 YWCA 会館)
1 月 19 日 (日)	
1 月 20 日 (月)	

タイムテーブル

時間	内容	場所 (または移動手段)
1 月 17 日 (金)		
12:10	【金浦国際空港組】 日本YWCA参加者集合	金浦国際空港ゲート 3 近く 貸切バス
12:30～13:45	【金浦国際空港組】 韓国YWCAによる空港送迎サービス ⇒会場 (Seoul N Hotel Dongdaemoon) へ	
13:00～14:00	韓国側参加者登録	Seoul N Hotel Dongdaemoon (地下2階) Community Hall
13:30～14:00	日本側参加者登録	
14:00～14:20	(1) 開会式 (2) 歓迎の挨拶 (Mimi Han : 世界YWCA副会長)	
14:20～14:50	オリエンテーション/ アイスブレイク	
14:50～15:00	休憩	
15:00～16:45	基調講演「韓国におけるミソジニーと#Metoo運動、およびその歴史」 講師 : CHO, Jaeyeon (Korea Women's hotline 人権文化局局長) http://enghotline.cafe24.com/ *韓日通訳付き	
16:45～16:55	質疑応答	

16:55～17:10	休憩									
17:10～17:55	韓国YWCAによるナショナルレポート発表 *韓日通訳付き									
18:00～18:50	日本YWCAによるナショナルレポート発表 *日韓通訳付き									
18:50～19:00	まとめ									
19:00～20:00	夕食									
20:00～21:00	韓国YWCAによる文化交流 *韓日通訳付き									
21:00～22:30	(日韓YWCAの実行委員間で、アクションプランに関する打ち合わせ)									
1月18日(土)										
8:00～9:00	朝食	Seoul N Hotel Dongdaemoon								
9:00～9:40	ジェンダー平等図書館“Yeogi”に移動（グループで移動）	公共交通機関								
10:00～10:40	ジェンダー平等図書館“Yeogi”を訪問 *韓日通訳付き	18 Yeouidaebang-ro 54-gil, Daebang-dong, Dongjak-gu, Seoul								
10:40～11:30	「戦争と女性の人権博物館」へ移動（グループで移動）	公共交通機関								
11:30～12:55	昼食	徒歩								
12:55～13:00	「戦争と女性の人権博物館」に集合	徒歩								
13:00～15:00	「戦争と女性の人権博物館」見学 *韓国側参加者 <table><tr><td>13:00～14:00</td><td>オリエンテーション</td></tr><tr><td>14:00～15:00</td><td>博物館見学</td></tr></table> *日本側参加者 <table><tr><td>13:00～14:00</td><td>博物館見学</td></tr><tr><td>14:00～15:00</td><td>オリエンテーション</td></tr></table>	13:00～14:00	オリエンテーション	14:00～15:00	博物館見学	13:00～14:00	博物館見学	14:00～15:00	オリエンテーション	20 World cup buk-ro 11-gil, Seongsan 1(il)-dong, Mapo-gu, Seoul
13:00～14:00	オリエンテーション									
14:00～15:00	博物館見学									
13:00～14:00	博物館見学									
14:00～15:00	オリエンテーション									
15:00～16:00	韓国YWCA会館に移動	公共交通機関								
16:00～17:00	休憩+ 韓国YWCA会館の歴史博物館“jie”を訪問	韓国YWCA会館								
17:00～18:00	グループでフィールドワークの感想共有	韓国YWCA会館講堂								
18:00～19:50	夕食 「ミッションプロジェクト」：街にある性差別的な広告・表現を探し歩く	明洞								
20:00～21:00	日本YWCAによる文化交流 *日韓通訳付き	韓国YWCA会館講堂								
21:00～21:30	Seoul N Hotelに移動	タクシー								
1月19日(日)										

8:00～9:00	朝食	Seoul N Hotel Dongdaemoon
9:00～9:30	韓国YWCA会館に移動	タクシー/公共交通機関
9:30～10:00	【日本YWCA】朝の集いの準備	韓国 YWCA 会館講堂
10:00～10:30	日本YWCAによる朝の集い	
10:30～11:30	グループ毎のプレゼンテーション (1) フィールドワークの感想 (2) グループでの「ミッションプロジェクト」の報告	
11:30～13:00	グループ写真撮影およびランチ	
13:00～15:00	ワークショップⅠ 1. 日韓YWCAのアクションプラン作成（行動計画）	
15:00～15:20	休憩	
15:20～17:30	ワークショップⅡ 2. CSW64（第64回国連女性の地位委員会）パラレルイベントの企画	
17:30～18:00	グループ毎のプレゼンテーション	
18:00～19:30	夕食	
19:30～21:00	明洞体験	
21:00～22:00	Seoul N Hotelに移動	タクシー
1月20日（月）		
8:00～9:00	朝食/ チェックアウト	Seoul N Hotel Dongdaemoon
9:00～9:30	韓国YWCAに移動	貸切バス
9:30～11:00	ワークショップⅢ (1) アクションプラン（行動計画）の最終化 (2) 次回の日韓ユース・カンファレンスのテーマ決め	韓国 YWCA 会館講堂
11:00～11:30	閉会	
11:30～13:00	解散 【金浦国際空港組】金浦国際空港に移動	貸切バス



プログラム報告

全体概要

第19回日韓YWCAユース・カンファレンスは、「ミソジニーと日韓 #Metoo 運動—東アジアの女性の連帯に向けて」というテーマで開催されました。日韓のユースたちが各国のミソジニーに起因する事件や、過去に起きた戦争から続く日本軍「慰安婦」問題について真剣に取り組み、活発な議論を生み出しました。

初日の1月17日にはオリエンテーションやアイスブレイクを経て、講師のCHO, Jaeyeon さんによる基調講演「韓国におけるミソジニーと #Metoo 運動、およびその歴史」を受講し、その後両国の参加者がそれぞれの国の現状や歴史を説明するナショナルレポートの発表をしました。2日目の1月18日には、ジェンダー平等図書館“Yeogi”を訪問し、その後「戦争と女性の人権博物館」を見学しました。さらに韓国YWCA 歴史博物館“Jie”を訪問しました。2日目には街中にあるセクシズムを表す広告を撮影し、記録するというミッションプロジェクトもありました。3日目の1月19日にはグループ毎のプレゼンテーションを行い、その後ワークショップⅠ（アクションプランの作成）およびワークショップⅡ（CSW64 でのパラレルイベントの企画）を行いました。その後4つのグループに分かれて各自ショッピングや夜景散策などの文化体験の時間を過ごしました。最終日1月20日にはワークショップⅢ（アクションプランの最終化及び次回カンファレンスのテーマ決め）を行いました。なお、アクションプランの詳細については以下に担当者が詳細を報告します。また、次回のカンファレンスのテーマは「LGBTIQ+と宗教」に決定いたしました。

今回のカンファレンスは全体を通じて、両国の若者たちが自らコミュニケーションを図り、議論をし、フェミニズムの歴史を紡いでいくという強い意志のもと行われたものであったと感じます。また、多くの学生が、フェミニズムの歴史について深く理解し、それらを決してなかったものや、あるいはないものにしてはいけないという確固とした考えのもと、自身も同じくフェミニズムの歴史の一部であることを誇りに思い、その気持ちを糧にたたかっています。日韓の学生たちが4日間寝食を共にし、両国の歴史認識の相違について話し合い、また反省し、笑いあい、草の根の文化交流を今年も続けることができました。いま、カンファレンスによって芽生えた友情や団結力というのは、実際に皆が同じ目標や意志を持ってその場に集まり、真剣に取り組んだからこそ生まれたものであり、それらは決して簡単に壊れたり、自然に無くなっていってしまうようなものではないと考えます。

両国には戦争に起因する「難しい」関係性がありますが、カンファレンス参加者たちは戦争の反省を決して忘れず、また、旧日本軍「慰安婦」にされたハルモニたちの声を、勇気を決して忘れません。ハルモニたちが巻き起こしてくれたフェミニズムの波をこれまで以上のものにし、これ以上ミソジニーや家父長制の被害にあう人が増えないよう、私たちが今できる最良のアクションプランを作成しました。私たちはミソジニー、性暴力、ポルノ産業、セクシズム、女性をないがしろにするそれらすべてに NO といい続け、#Metoo と声を上げ続ける人がいる限り、#Withyou と寄り添い、自身がフェミニストであることに誇りや尊厳を持ち続けていきます。私たちは、今カンファレンスを終着点ではなく、一つの通過点としてこれからもフェミニストであり続けます。

Day 1 1/17 (金)

開会・アイスブレイキング

初日の会場である、明洞のとあるホテルに、日本 YWCA 側からの参加者が到着したのはお昼頃。これから 4 日間を共にする韓国 YWCA 側からの参加者たちが温かく笑顔で迎え入れてくれました。参加者はお互いに、英語、日本語、韓国語を使いながら、自己紹介（名前、出身、専門など）を話して、すぐに打ち解けていきました。



写真 1：ホールに着くと、壁の日韓ユースカンファレンスの大きな幕がお出迎え

開会式では、世界 YWCA 副会長のハン・ミミさんが、参加者たちに、日韓の sisterhood の絆の強さについて熱く語ってくれました。ミミさんは、日韓ユース・カンファレンスは今年で 19 回目を迎え、このような日韓の共同ユースプログラムが YWCA の歴史の中でも非常に長い歴史を持っていることを喜ぶと共に、ここにいる一人一人がリーダーであり、各々が社会の中でリーダーシップを発揮していくことを大いに期待している、ということをお話してくれました。

次のアイスブレイキングでは、韓国 YWCA の参加者が様々なゲームをしてくれました。一つは「これは何の一部でしょう？」ゲーム。アニメのキャラクターや、その映画のポスターの一部分だけを見て、何のアニメか当てるゲームです。エルサやコナンなど、日本でも有名なキャラクターがたくさん登場し、会場は大盛り上がりでした！そのほかにも YWCA OX クイズなど、内容は盛りだくさんで、日韓のユースたちのチームビルディングに花を咲かせました。



写真 2：何が始まるのかとドキドキのアイスブレイキング

基調講演



CHO, Jaeyeon (Korea Women's Hotline 人権文化局局长)

韓国での#Metoo運動は2018年に本格的に始まっていますが、きっかけとなる出来事が2015年から起こり始めました。それは大きく分けて5つあります。

1つ目は、#나는_페미니스트 (私はフェミニストだ)というハッシュタグをつけてSNS上に投稿する人が増えてきたことである。この背景には、イスラム過激派組織のISが社会問題化した時、「女性はISよりも知能が低い」と女性を非難する発言があったことがきっかけでした。そこから「メガリア」と呼ばれるネットで活動するフェミニストたちにより反論がなされました。

2つ目は#데이트 폭력 SNS 폭로(デートDVを女性がSNSで投稿)です。デートDVの加害者の中には人権活動家もいることが明らかになりました。しかし、それに対して加害者が被害者を名誉毀損で訴えることもありました。

3つ目は#강남역 여성살해 사건 (江南駅ミソジニー殺人事件)です。この事件は韓国のフェミニズムの歴史の中で重要な事件となり、「ミソジニー」という言葉がキーワードになったきっかけです。2016年5月17日、ソウル市の江南駅周辺の男女共有トイレで加害者となった男性が1時間待ち伏せし、たまたま入ってきた女性を殺害したという事件です。ミソジニー殺人であるにもかかわらず、容疑者の男性は統合失調症を発症していたことから、政府は「容疑者は病気であったこと」「そもそもトイレが男女共有であること」が殺人の理由だと述べました。江南駅は多くの若い女性が利用する駅だったため、自分にも起こり得た事件であったことから共感を生み、駅周辺にメッセージを書いた付箋を貼り哀悼するムーブメントが生まれました。

4つ目は#00_내_성폭력 말하기(内政的暴力の暴露)です。映画、スポーツ、会社など、様々な業界内の性暴力において女性が声をあげる動きが生まれました。また、その暴露によって二次被害が起こらないよう支援活動も活発に行われるようになりました。それと同時に、5つ目として、加害者をかばう傾向にあった警察の暴力を暴くため、女

性たちは#2017_경찰이라니_가해자인줄 というハッシュタグで投稿しました。

そして5つ目には、女性の検事が上司からセクハラを受けたことをテレビ番組で告白したことがあります。エリート女性もセクハラを受け、また声をあげた姿を見た多くの女性が、自身も経験を語って良いと感じるきっかけになり、2018年、#Metoo運動が本格化します。

2018年以降、性暴力は社会に溢れているという認識が増えたことで、「Metoo」関連の記事が125,487件掲載され、Korea Women's Hotlineへの相談件数が23.5%増加し、性差別を無くすための「Metoo法案」が219件提案されました。2018年、「#Metoo」「性暴力」「性差別」「女性に対する暴力」というキーワードが含まれた集会の申告件数は117件にのぼり、それは約3日に1度集会が申告されていたことを意味します。

たくさん行われた集会の1つに#안희정은 유죄다 유죄를 확정하라 (アン・ヒジョン忠南道知事による性的暴行事件)がありました。彼は有力な大統領候補の一人であったため最初は無罪とされていたが、支援団体が裁判の傍聴や署名運動を展開したことで、3年6ヶ月の確定判決がなされました。また、#김학의 전법무부 차관등에 의한 성폭력사건 (キム・ハギ元法務部次官による性的暴力事件)に対する集会も開かれました。この事件は被害者側が10年経ってから告発をしたため、捜査する価値すらないとみなされ、未だ解決されていない問題です。他にも女優の정지연(チョン・ジヨン)は性的暴行を受けていた(接待の道具として性的に搾取された)ことで自ら命を絶ちましたが、このニュースも改めて取り上げられるようになりました。さらに、男性教員による女性生徒への暴力がきっかけで、#스쿨미투 (School Metoo 運動)も広がっていきました。最初は卒業生が自分の経験を語っていたのにすぎなかったのですが、学校の窓に#WITH YOUなどの文字を貼り、在校生を含めた支援により広がるようになりました。またTwitter上では全世界で1番人気のハッシュタグになり、全世界が注目する運動になりました。#Metoo運動が広がった一方、権力を持った加害者と警察が「カルテル」と呼ばれる男性同盟を組織して繋がっており、これが司法や政治面で運動を妨げていることも明らかにされました。

このようなミソジニー事件を無くすためには、何が必要なのでしょうか。まずは、レイプ神話と被害者らしさを撃破することです。性暴力は女性気をつければ済むと思われている場合が多いのが事実です。例えば、女性が露出の多い服を着ていることが原因で、加害者は「好奇心」によって偶発的に行ったにすぎないため罪を免除するべきだと考えている人がいる現状であります。また、逃れられないような暴力や脅迫があった時のみ性暴力と認識される傾向にあるため、親密な関係性における性暴力が認識されにくい状況にあります。性暴力に関する認識を変える必要があると言えるでしょう。

また、性暴力は個人的なレベルでのみ生じる問題なのだけではなく、性産業というような社会構造・文化的な問題でもあります。性産業を壊すためには国家の介入が必要ですが、国家がミソジニーを助長している側面もあります。また民事訴訟で賠償を得ることも重要でしょう。





Part 1 数多くの発話



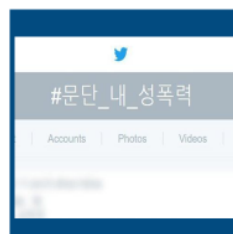
#フェミニスト宣言運動
2015.02



デート暴力 SNS暴露
2015.06



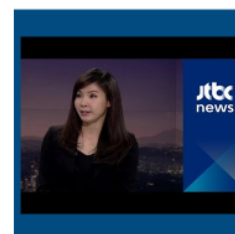
ガンナム駅ミソジニー殺人事件
2016.05.17



#00内性的暴行の暴露
2016.10



#警察?加害者だと...
2017.11



#MeToo運動の本格化
2018.01.



Part 2 2018 Metoo

2018年
「MeToo」関連記事125,487件
韓国女性の電話の相談件数23.5% 増加
性的暴行事件受付件数増加

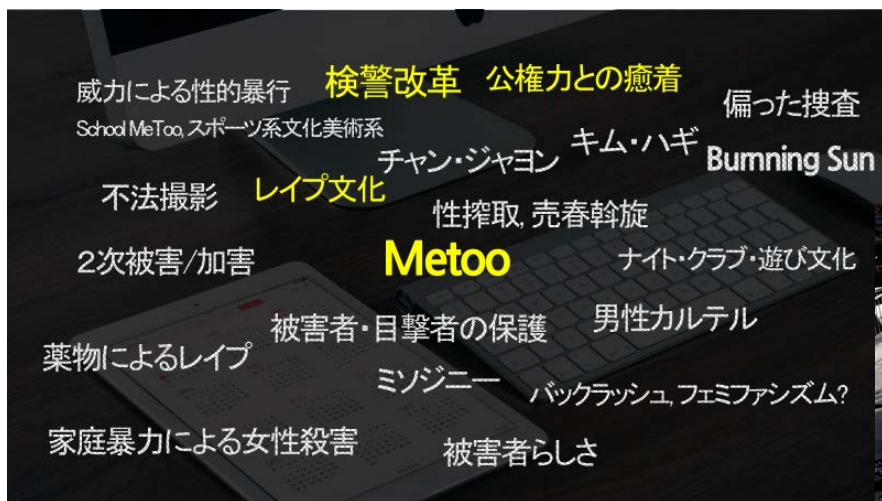
国民請願の推薦の上位100件の中
「人権/性平等」の分野1位(19%)

殺到した「MeToo法案」219件
殺到した政府総合対策、部処別対策委員会

2018年 MeToo, 性差別, 性暴力,
女性暴力のキーワードが含まれた集会の申
告件数

117

およそ三日で一回くらいの
集会申告



何に注目すべきなのか

- バックラッシュ、逆差別・ジェンダー葛藤、ジェンダー均衡論 → 性差別的現実についての明らかな認識
- 個人の不運、逸脱、病理的問題 → 社会構造的な問題
- 女性暴力の法概念: 類型/行為中心の破片化した定義 → 基本概念、保護法域
- 犯罪捜査・裁判: 被害者の処罰意思で判断、被害者に立証の責任を転嫁 → 被疑者/被告人の不法行為に対する捜査と検証
- 「要保護女性」、恩恵的なアプローチ → 人権侵害の国の責務、基本権保障
- 被害者の安全保障
: 被害者制御、施設を中心 → 加害者隔離など再犯防止措置、被害者の生活の権利を実現することができる社会的諸条件/環境設け

01

レイプ神話と
被害者らしさ 撃破

韓国社会が性的暴行を消すやり方

「レイプを申告する
女性は
相手の怒りや
復讐のため
嘘をつく」

31.3%

「そうだ」と答えた男性回答者の割合
(女性家族部、2016年の全国の性的暴行の実態調査結果報告書)

女性がキスや愛撫を許可することは、性交を可能であるという意味である 48.2

女性が初めて会った男の家に行くことは、性交を許すという意味である 42.5

女性が「嫌だ」と言うのは本気ではない 35.7

恋人関係で喧嘩した後、性交をするのは和解や愛を確認する方法である 30.2

女性が最後まで抵抗すると、強制的に性的関係をすることは不可能である 30

恋人関係でのスキンシップは、相手の同意を求める必要がない 28.3

女性が気をつければ、性的暴行を減らすことができる 55.2%

性的暴行は露出が多い服装のために起こる 54.4%

女性が酒に酔った状態で性的暴行を受けた場合の女性にも責任がある 47.7

性的暴行を受けた女性もある程度の責任がある 39.2

羞恥心が持っている女性は強姦申告をしない 35.6

「性暴力と被害者らしさの神話が強い社会で
性暴力はいつでも疑わしい、性暴行でないことになるし、
被害者は、嘘をつく人、「ハニートラップ」になることがある。

性暴力は、被害者が誘発することだから
被害者が予防しなければならず、被害者に責任があり、
加害者は、「好奇心」や「性的本能」に、「誘惑」され、
「偶発的」にしたのだから罪を減免しなければいけない。

性的
暴行
を
書き
直
す

「レイプを含む性的暴行を身の安全と身体的、
性的、精神統合性/完全性(integrity)への権利
に反する犯罪であると特定し、配偶者レイプ、
知人レイプ、デートレイプを含め、性犯罪の定
義が自由に同意の欠如に基づく強圧的な状況
を考慮したものであると保証しろ」

- 国連女性差別撤廃委員会、「ジェンダーに基づく女性に対する暴力」に関する一般的な
勧告第35号、29(e)

02

女性殺害の理由
親密なパートナーによる
暴力

家庭内暴力やミソジニー殺害

マスコミに報道された殺人事件集計結果

過去10年間(2009-2018)の親密な関係の男性パートナーによって殺害された女性
最小887人、未遂を含む1,614人

加害者が言う犯行の動機

「好きだから」、「よく会ってくれないから」、「別れようと言うから」、「プロポーズを拒否して」、「同居
を拒否して」、「偽装離婚をしてくれないから」

「酒を飲めないようにするから」、「お酒を飲んで」、「外泊をしたから」、「祝日にぼくの実家に行か
ないから」

「眠りを覚ますから」、「腹がたって」、「ご飯をくれという自分の言葉に答えてないから」、

「他の女性関係を追及するから」、「別れた女性が他の男と一緒にいる姿を見たから」、

「借りたお金を返せと催促して」、「現金サービスを受けられなくて」、「デートの費用を取り戻すた
め」、「過去の暴行事実を訴えるとして」、「性関係動画を消すようにするから」、

「仕事をやめさせるために」

韓国女性の電話、「親密な関係にある男性に殺害された女性の統計分析」

「家族」－ 正常家族の規範を超えて

- 二分法で生物学的な性を踏まえて、男女という「両性」の婚姻家族が構成・維持する必要があるという、正常家族の規範は、家族を取り巻く正常性の位階、不平等なジェンダーシステムを維持・強化し、家族内の差別と暴力を隠蔽する要因として働く。
- これらの正常家族の規範は「家庭内暴力犯罪の処罰などに関する特例法」の目的条項をはじめ、国の家庭内暴力防止ポリシーを貫通し、家庭内暴力犯罪についての明確な司法処理を防ぎ、被害者に加害者との関係回復を注文し、家庭内暴力根絶を遮る主要根拠となっている。また、家庭のメンバーを婚姻と血縁関係を中心に狭小に定義することにより、様々な家族との生活共同体の中で発生する暴力に介入できないようにする。

03 性搾取に繋がる男性のカルテル
公権力との癒着－
事件処理過程での人権侵害

04 女性に対する暴力被害者の
賠償権
被害者の当然の権利

男女平等と人権の視点や原則として、 女性の暴力犯罪のための明確な罰則

認識改善X共感拡散/勢力化X法制度の改善

女性に対する暴力の被害者の
権利に基づいて、包括的、目詰
まりのないサポート

女性への暴力の被害者と支援者
の安全保障



□ 女性にとってもっと
言わせて、経験を
共有し、繋いで、女
性の視点からの経
験を解釈しなければ
ならない。



「**解釈学的不正義**と言うのは、社会のマイノリティに属する人々の経験が正しく理解されていないこと、彼らの経験を表現できる言語が制限的な現象を言う。」

女性の声が正しく聞こえなかったり、女性の経験が歪曲される理由は、女性のための信頼と関連している。そして、女性の証言が信頼されない1つの理由は、女性だから」であれば、これは不平等な権力関係が事件と状況に対する我々の認識に影響を与えることを意味する。女性の経験が正しく理解されていても、経験の記述が信頼受けることもできないことは、社会全体の現象であるが、特に法の論理を展開して、法の言語を使用することにはさらに厳しい。

「**証言不正義**と言うのは、聞く人の偏見のために話している人の陳述が信頼されていない現象を指すもので、話している者、個人についてのものではなく、彼が所属する集団の社会的アイデンティティに基づく偏見をその原因とする。つまり、歴史的に被支配集団であった女性、黒人、そして労働者層に属する者が非論理的典型化の代表的被害者なのに、彼らは支配集団の偏見と無視のために能力や信頼性、あるいはその両方が欠けている劣った人々に認識されてきた。」

－ ミランダ・ブリカー

韓国 YWCA によるナショナルレポート発表

韓国 YWCA からのナショナルレポートの報告では、初めに広告におけるミソジニーについての発表がありました。例として最初に挙げられたものが、女性用下着の広告で「彼氏をがっかりさせる下着」という意味の文言が付けられたものです。男性の好む下着を付けること、男性のために持続的な体型管理が必要であるというメッセージ性が含まれていました。また英会話スクールの広告では、若い女性の画像と「熱く」という本来の広告内容とは関係のない言葉を使用することで、女性を性的対象物として見なしていることが表れています。これらは社会に悪影響を及ぼしています。

韓国では歴史的にミソジニーが見られていますが、これがカンナム駅殺人事件を引き起こした要因でした。女性に対する規範や「一般的な女性」像を社会が作り上げ、それを女性たちに対し示唆してきました。女性に対する卑下や女性に対する敵対心、「女性が問題だ」という考え方が蔓延しています。韓国では女性に対する軽蔑的な「〇〇女」という呼称が広まっています。

新自由主義、資本主義社会の中で不安定な状態が増大するにつれ、人々が抱く内面的な不安や嫌悪を女性に対して表現するようになりました。インターネット上の匿名性がヘイトを含む「表現の自由」を容易にし、ヘイトスピーチや「捏造」といったミソジニーが更に蔓延しました。

2016年に韓国、カンナム駅で発生したカンナム駅殺人事件はミソジニーを極大化させた決定的な事件でした。カンナム駅の男女共用トイレで女性が殺害された事件です。犯人は男性で、その犯行動機は「女だったから」「女性が私を無視したから、女性を殺した」と自白しました。犯人には統合失調症の疑いがあったことから、政府はこの事件をミソジニーが原因とするのではなく、犯人の精神疾患が原因として処理しようとしていました。

韓国の女性たちは自分がこの事件の被害者であってもおかしくなかったと考え、恐怖や不安に駆られました。そして被害女性への追悼としてカンナム駅 10 番出口に自分の考えを書いたポストイットを貼っていきました。ミソジニーを原因とした被害を告白し、自分の声を挙げていく運動が高まっていきました。

韓国の過去から続いてきた #MeToo 運動として、日本軍「慰安婦」女性の中で初めて自身の体験を告白したハルモニであるキム・ハクスンさんの告発があります。現在では長く続く水曜デモやスクールミートゥー (School Metoo) に広がり、被害女性たちが声を挙げやすいようにサポートする機関も存在しています。

韓国 YWCA によるジェンダー平等への取り組みとして、性暴力根絶を訴えるマーチや勇気を出し被害を告白した女性たちに対する警察や政府の適切な対応を求める運動がありました。地域 YWCA では #MeToo 運動とマスコミ報道についての討論会や、性差別的なメディアについて「どうしてその CM が性差別的なのか？」といったことを考えてもらうための広告を出しました。韓国 YWCA 全体では具体的に政府に行動を要求したり、性別による賃金格差の解消、ジェンダー平等な育児法のための改正を要求しています。ソウル YWCA は女性暴力防止法を求め、その結果、より体系的な対応システムが構築される予定となっています。

ジェンダー平等な韓国のために、制度と社会に引き続き要求すると同時に、東アジア全体のジェンダー平等のために連帯することが必要不可欠です。韓国 YWCA から「#Y_TOO」(YWCA の #MeToo 運動) というハッシュタグを SNS で利用し、YWCA 間での連帯を強めていくことを主張しました。

Misogyny and #Metoo In Korea

YWCA OF KOREA



남친 彼氏

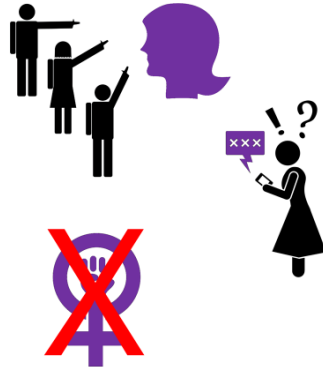


화끈하게 熱く

Misogyny

Misogyny

- All attempts to standardize and generalize women as women (Korean Women's Friendship Association)



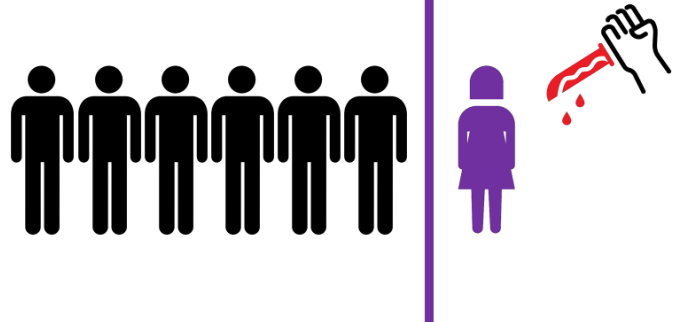
Misogyny



Misogyny



Gangnam station Murder case



Gangnam station Murder case



#Metoo

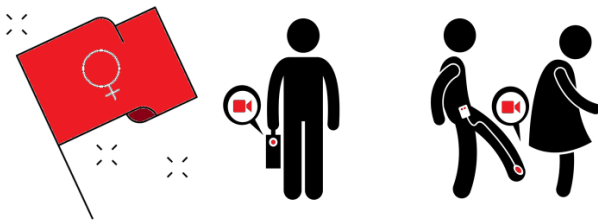
<제1차 수요일시위> 第1次水曜集会



#Metoo



Hyehwa station Protests



Hyehwa station Protests



Gender Equality Movement of YWCA

Gender Equality Movement

3.8 여성의 날 '미투운동' 지지와 성폭력 근절을 위한 YWCA 행진
3.8女性の日 'MeToo運動'の支持と性的暴行の根絶のためのYWCAマーチ



Gender Equality Movement

지역YWCA 성평등 운동(서울Y) 地域YWCA 男女平等運動(ソウルY)



MeToo運動とマスコミ報道

その広告がどうして性差別的なのかですって?

日本 YWCA によるナショナルレポート発表

日韓ユース・カンファレンス1日目に、日本における「ミソジニー・#MeToo 運動」についてのナショナルレポートを発表しました。テーマは3項目に分かれており、1つ目が「現在・歴史的なミソジニーの事例」、2つ目が「#MeToo 運動の現状」、3つ目が「日本の YWCA がミソジニーと#Metoo 運動に関して実践している取り組み」でした。

1つ目のテーマでは、「歴史的なミソジニー」、「現在のミソジニー」、「メディアから見たミソジニー」について発表しました。「歴史的なミソジニー」では主に家制度など明治憲法下における女性差別や公娼制度について触れ、日本におけるミソジニーの根本的な問題について発表しました。「現在のミソジニー」では、AV や成人向け雑誌などにおいて女性の性が商品化されていること、また痴漢などのミソジニー思想による犯罪被害を報告しました。「メディアから見たミソジニー」では、ミソジニー思想を含む内容を放送する日本のテレビ番組、また「男ウケ」や「モテ」の内容を含む雑誌を例にとり、日本女性のミソジニー思想の内面化について発表しました。

2つ目のテーマでは、フリージャーナリストの伊藤詩織さんや、一般社団法人 Spring の代表理事の山本潤さんが受けた性暴力とそれに対する行動に触れながら日本国内の#MeToo 運動について発表しました。そして、各都市で性暴力を告発するフラワーデモや、ハイヒールの強制に反対する#KuToo 運動といった日本における#Metoo 運動についても触れました。また、司法・メディア・教育から#MeToo 運動を阻む要因についても言及しました。

3つ目のテーマでは、世界 YWCA で作られた、若い女性のリーダーシップ養成ガイドブック RISE UP! の勉強会（横浜 YWCA）や、天皇制と女性の権利についてのレクチャー（名古屋 YWCA）を取り上げました。そして、女性のための女性による相談支援事業ウィメンズカウンセリング（名古屋 YWCA）、さまざまな事情から家族と一緒に暮らすことが難しい若い女性が安心・安全に生活できる施設カルーナ（京都 YWCA）について発表しました。また、日本 YWCA から社会へのアクションとして行われた東京医科大学不正入試への声明文、ジェンダーに基づく暴力についての啓発を目的とする「#キャンパスをオレンジにキャンペーン」（大阪 YWCA、関西学院大学 YWCA）についても発表しました。

韓国側参加者からも質問が沢山出て、実りの多い発表になったと思います。「韓国ではフェミニストはかつて悪いと思われているが日本ではどうなのか」といったリアルな質問も出ました。社会制度や風習が似ているお互いの国について共有できたことは、これからアクションプランを共に進めていく中で大きな成果だったと言えます。



カウンセリング、シェルター



社会に対してのアクション



- 京都YWCA
自立支援援助ホーム「カルーナ」
 - 何らかの理由で家庭にいらなくなり働かざるを得なくなった、15歳から20歳までの女の子が暮らす場とする施設。
 - 「受容」と「見守り」



- 大阪YWCA・関西学院大学YWCA
#キャンパスをオレンジにキャンペーン
- ジェンダーに基づく暴力についての啓発
- SNSの活用



韓国 YWCA による文化交流

初日の夕食後に、韓国 YWCA による文化交流が行われました。

この文化交流では、韓紙を使って紙のお皿の模様付けをすることで、昔ながらの韓国の文化を知ることができました。

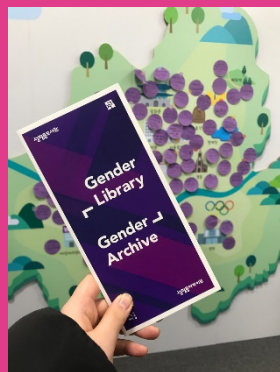
韓紙とは、楮(こうぞ)の皮を原料に流しすきによって作られる韓国伝統の紙です。7世紀ほどに中国から製紙技術が伝わり、韓屋のオンドル床や壁の仕上げや建具の内装材に使われ、昔から人々の生活文化に密接な関わりを持ってきていました。この紙は韓国の伝統色を取り入れていて、その伝統色は「陰陽五行説」が基本となり作られています。中国の思想である「陰陽説」と「五行説」が結合した世界観のことです。伝統色は、青・赤・黄・白・黒の「五方色」、その中間色である紫・紅・碧・緑・硫黄の「五間色」と大きく2つに分けられます。これらの色に裏付けられた意味は韓国の文化や人々の暮らしに根差し、多くの影響をあたえてきたそうです。

わたしたちがもらった韓紙の体験セットには、緑・紫・碧・紅・黄の紙が入っており、とてもきれいで繊細なものだと感じました。実際に紙の模様付け体験の際に、どれも素敵な色だったので組み合わせでたくさん悩み切り貼りに同じグループの韓国 YWCA の子が手伝ってくれたり、短い時間でしたがこの文化体験を通じてお互いを知ることができる有意義な時間になりました。

完成したお皿は丁寧に持ち帰って、自分の机の上にアクセサリーと鍵を置き場として使用しています。旅行で韓国に来るときは味わうことができない素敵な体験をすることが出来ました。



Day 2 1/18 (土)



ジェンダー平等図書館“Yeogi”に関する公式な情報は、
p.36 をご覧ください

ジェンダー平等図書館“Yeogi”



ソウル市韓国家族財団の2階にある性平等専門図書館「Yeogi（ヨギ）」を訪問しました。韓国国内初のジェンダー専門図書館であり、「女性が記録し、女性が記憶する空間」という意味を込めて作られた図書館です。ソウル市が設立・運営しており、誰でも観覧可能な施設です。



設置された本棚（写真左）には「どんどん良い方向に変わっていくように」という意味を込めて、上へ上へと段ができており、その間の間隔が広がっているというのが次へ進むステップへの厳しさ度合いを表しているという。

本棚に並んでいるのは#METOO についての本から、フェミニズム、過去の事件など、様々なジェンダーに関する著書や専門書、古くから記録されてきた日誌のようなもの、資料がたくさん立ち並んでいる。NGOの資料を含めここにしかない貴重な資料も保管されている。

この日韓ユース・カンファレンスで初めて知った江南駅近くの公衆トイレで起きた女性無差別殺人事件。この事件は、本棚と本棚の真ん中に大きく展示され、たくさんの応援や哀れみの声、これからを変えていくという声などが書かれたポストイットがたくさん貼られていた。事件が起きた事で女性が女性である事を怖く感じたという事、この事件があって SNS で#METOO 運動が活発化した事。リアルな声を綴った書物もたくさんあり、事件の重大さ、影響を体感した。



この図書館を訪れた事で、韓国でのジェンダー意識というのは本当に高いという事を、身をもって感じた。何よりも情報のアップデートがされ、大きく共有がされている事、それが日常会話の中に出てきている事に感動した。館内はとても大きく、たくさんの椅子と机があり、本棚のところには必ず椅子が置かれていた。館内のみんなが一つになり、インプットし共有をしていくという、まさに建てられた意味と同じ空間が出来ていたと感じた。

「戦争と女性の人権博物館」 見学

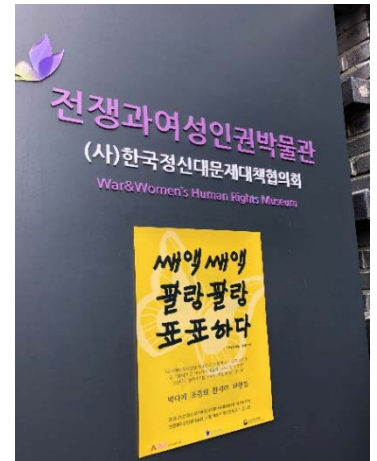
2つめのフィールドワークでは、「戦争と女性の人権博物館」を訪れ、日本側参加者と韓国側参加者の2つのグループに分かれて見学をしました。日本側参加者は、一人ずつ日本語での音声ガイドを聞きながら館内を見学しました。

まず、博物館の展示は蝶が飛ばしていく印象的な映像とともに始まります。被害者が描いた絵に沿って地下展示室に進むと、最初に被害の証言をされた方の映像が流れており、また当時の街並みや慰安所を再現した空間になっていました。暗く閉ざされた場所で被害者の方たちが感じた閉塞感や絶望感を想像することができます。



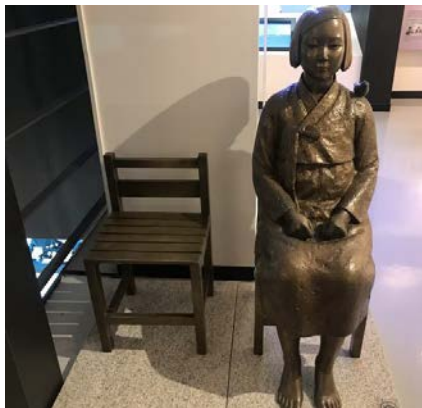
そして2階へと続く階段にも「叫びの壁」と名付けられた展示があり、被害者の写真とともに、苦痛の声が韓国語・日本語・英語で展示されていました。

しかし階段をのぼりながら明るい空間に進むにつれ、壁に刻まれたメッセージの内容は、「二度と同じような被害者を出さないでほしい」、「同じ苦しみを味わった女性の希望になりたい」という未来へのメッセージになっていたことがとても印象的でした。



博物館の2階はおもに日本軍「慰安婦」について展示されていました。一番最初に案内されるのは「歴史館」と呼ばれる場所でした。そこでは実際の新聞や日記などの文書や関連資料が展示されており、真相が明らかにされています。ここで被害者の経験した悲惨な過去を知ることができます。被害者の証言を基にしたアニメも放送されており、よりリアルな被害者の気持ちを知る事ができます。

また、慰安所の構成などが書かれている絵も展示されていて、被害者の方たちがいかにつらい思いをして過ごしてきたか実感できます。



そして次のスペースに進むと、「慰安婦」問題の解決に向けた運動や活動について展示されています。水曜デモの映像が流れていたり、慰安婦を巡った裁判の記録が展示されていたりしますが、展示品の中で最も印象的だったものが「少女像」です。ここに展示してある少女像は日本大使館の前に設置されたものと同じ像だそうです。

私は、今までこの少女像について深く調べたことがなかったので知らなかったのですが、少女の左側の椅子が空いているのは誰もが彼女と気持ちを合わせられるようにしたからだそうです。

また、左の肩には小鳥が止まっており、この小鳥は自由と平和の象徴となっています。

この少女像が設置されている日本大使館前では今も水曜でもが行われています。この少女も大使館のほうを見据え、一緒に戦っています。

その場所を進むと生涯館といって慰安婦被害にあった方々の被害の記録が展示されています。タッチパネルがおりてあり、そのタッチパネルで被害者の人が生きていた時の写真を見ることができます。被害者の方々が最後まで苦しい思いをしながらも、笑顔を見せていたという事に深く安心しました。



真ん中に寄付者の壁と呼ばれるものがあります。この写真では見づらいですが、壁一面に戦争と女性の人権博物館建設のために募金をした方たちの名前が刻まれています。これほど多くの方たちによってこの博物館は支えられていて、また慰安婦の被害にあった方の気持ちに寄り添う人も大勢いるということがわかりました。



今回、この博物館を訪れて今まで見ないようにしてきたということに気が付きました。「慰安婦」問題というものはどうしても気軽に口に出せる問題ではないという風に感じていました。それはどうしても加害国側のほうにいる人間からの思い方と、被害を受けた国との考え方は違うだろうと思っていて、話題に出すことは失礼だろうと思っていたからです。しかし、この博物館を通してそのような思い込みは間違っていたのだと感じました。この博物館で見たり感じたりしたことは今までには経験できなかったものです。改めて今までの学校教育を見直して考えてみることができました。歴史というものはその歴史をまとめている人によってすぐに変えることができてしまいます。日本の歴史の教科書の中ではなかったことにされていたことも、国が変わればきちんと明記されています。実際の被害者の方たちの生の声を聴いたり手紙を見たりすることによって、自分とは遠いところにあったような気がしていたことも身近に感じることができました。



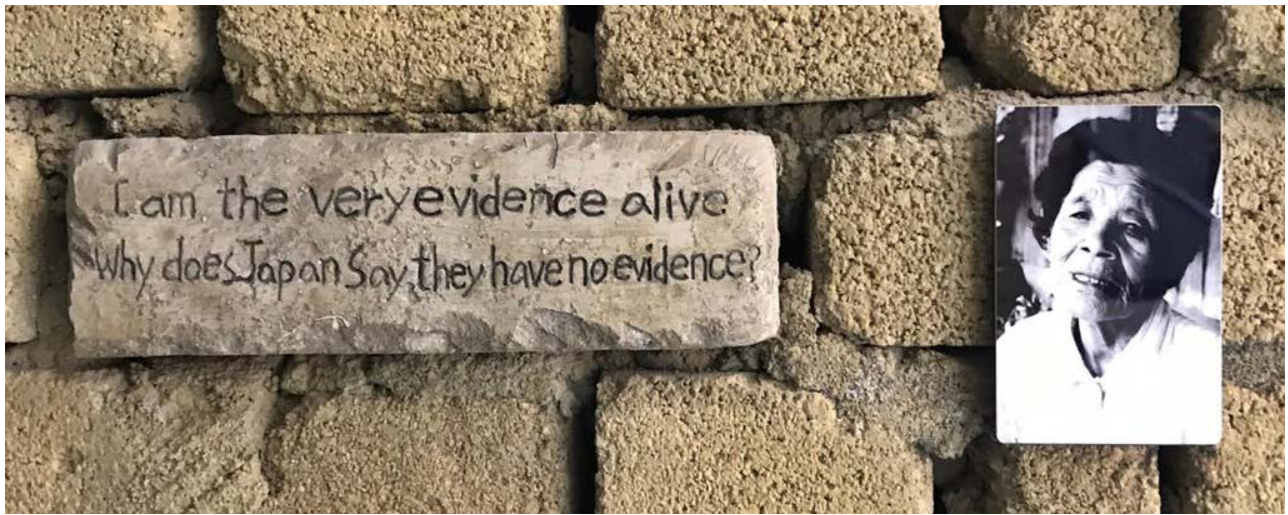
今回経験したことを受け入れ、これからどのように支援していけるのか、解決策はあるのか、考えながら過ごしていきたいと思いました。

博物館を見学後、資料館に移動し、ビデオの視聴をしました。ビデオのタイトルは「蝶、平和へと羽ばたくーハルモニたちの証言」。従軍慰安婦として性暴力の被害にあった方たちの証言や、彼女たちをサポートしている運動について紹介されました。ビデオを視聴後は、博物館職員のイ・ジョンさんによるお話を聞き、韓国での慰安婦問題に関する政治的な動き、またハルモニたちの現在の活動などについて、より詳しく説明していただきました。その中でハルモニたちの活動によって生まれた Butterfly Fund は韓国のみならず、ウガンダやナイジェリアなどの他の国々の性暴力被害者たちのネットワークづくりをサポートしていることも聞き、その連帯がまるで蝶が羽ばたいていくように、大きく広がっていることも知りました。参加者からも積極的な質問がされました。



このビデオを視聴することで、韓国で捉えられている日本軍慰安婦の問題と、日本で報道されている慰安婦問題の内容のあまりの違いの大きさに改めて驚くとともに、歴史認識の重要性を実感しました。実際に韓国を訪れてこの博物館を見学することで、日本ではほとんど知りえない被害者一人一人の体験、そしてその被害者と連帯する多くの人々の運動について知ることができ、大変貴重な経験となりました。



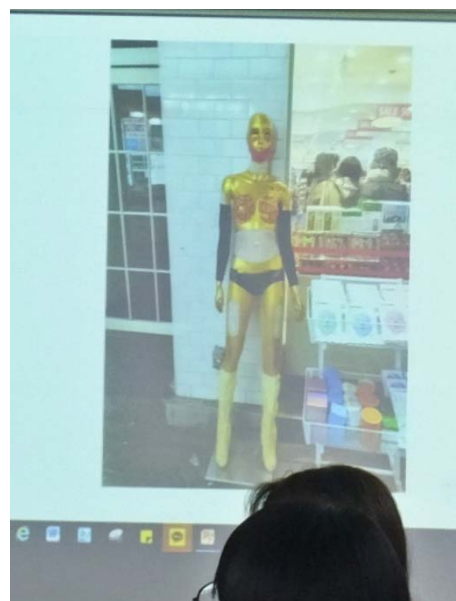


「ミッションプロジェクト」街にある性差別的な広告・表現を探し歩く



2日目の夜に、グループに分かれて明洞にご飯を食べに行きました。この時は、ただの食事ではなく明洞の街中にある、①「ミソジニ的表現がされているもの」を探すことと、②「#MeTooの文字を見つけてくる」ことがミッションとして課せられました。このミッションがあったことで、グループ内の仲を深めると共に、グループ内でミソジニーのことについて話をする時間が改めて取ることができました。また、ミソジニ的表現をしているものを探す際も、「まだこんなものがあるのか」といった声が上がったり、胸や腹、太もみに美容マスクを貼ったマネキン（美容マスクの広告なのですが、女性は美しくなければならないことを無意識のうちに刷り込むような広告になっていると思います）が店頭で堂々と置いてあったり、意識せず、このような表現があることが普通になっていることが怖いと感じました。このように、意識しながら街中を歩くというのは自分自身初めてだったので、今までは見向きもしていなかったものが実は、そういう機能を持っていたと思うと今までの自分自身を責めたくくなりました。

事務所に帰ってからは、グループで見つけ出してきた2つの成果を報告し合いました。重なるものがあったても、考えや思いはそれぞれ違ったもので、お互いにみんなで刺激し合えたと思います。



日本 YWCA による文化交流

2 日目には夕食後、日本 YWCA による文化交流を行いました。前半に人間知恵の輪、後半に AKB48 の「フォーチュンクッキー」をみんなで踊りました。内容を決める際、文化交流なので日本にあって韓国にないもの、みんなで協力して出来るものなどを条件として担当のメンバーで話し合い決めました。



人間知恵の輪では、初めに事前に組んでおいたチームに分かれて、それぞれ行いました。韓国にはないものだったのでスムーズに進むか心配でしたが、すぐに理解し、楽しんでくれました。チームで行った後、みんなでやろうということになりました。そこで参加者は2つに分かれ、1チーム20人くらいで挑戦をしました。やはり大人数になるほど難しく、とても時間はかかりましたが、1つのチームは成功することが出来ました。人間知恵の輪は人との距離が近くなり、またみんなで考えて動くことが必須であるので日韓関係なく自然と会話が生まれたと思います。たくさん笑顔も見ることができました。

ダンスでは、初め知恵の輪で分かれた小さいチームで、プロジェクターに映された見本の動画を基に練習しました。「フォーチュンクッキー」は、韓国でも馴染みがあるということで選曲をしました。踊るのはほとんど全員が初めてだったので、少し難しかったようです。ですが、みんな思い思いに踊ることで盛り上がりました。最後には、全員で大きな円になり踊りました。円になることでお互いの顔を見て踊ることが出来ました。

文化交流を通して、1 日目よりメンバーたちの距離がグッと縮まった
と思います。知恵の輪は、韓国にない文化であるので新しい文化に触れ
ることが出来、韓国 YWCA のメンバーは楽しんでくれたと思います。
ダンスでは、お互いに教え合ったり、見合いながら踊ったりとアイコン
タクトを取りながら踊ることが出来たのでたくさんの笑顔を見ることが
出来ました。韓国 YWCA のメンバーだけでなく、日本 YWCA のメンバ
ーも楽しんでくれたと思うのでとても良い交流の時間になったと感じま
す。



日本 YWCA による朝の集い



私たちは、プログラムが 17 日から始まり、この日は 3 日目で参加者の間で疲れがたまっていることを予想し、2 つのものを準備しました。

1 つ目は、礼拝をし賛美歌を歌うことです。YWCA がキリスト教基盤の団体であることと、韓国側参加者の中にはキリスト教を信仰している人が比較的多くいることを考慮して、行いました。賛美歌を歌い礼拝を行うことで、心を整え、また口を動かすことで声を出すウォーミングアップを行いました。

2 つ目は、体操です。疲れが残り、まだ起きていない体を目覚めさせるために、日本のアニメで過去に人気があった「妖怪ウォッチ」の「妖怪体操第一」を踊りました。まずは、どんな踊りかを見て貰い、その後朝の集いの企画を担当したメンバーが分かれて、踊りを教えました。

韓国 YWCA の参加者たちと和気あいあいと踊りました。前の 2 日間で話す機会が無かったメンバーたちとも話すことができましたし、笑い合いながら踊りを楽しんだので、その日の話し合い・ワークショップも良い雰囲気で行われました。グループでの話し合いも、生き生きとできたと思います。



ワークショップ I（日韓 YWCA のアクションプラン作成）

3日目、これまで見聞きし学んだことを基に、今後日韓のYWCAの参加者として、ミソジニーを無くしていくため、どのように#Metoo運動を進めていくべきか各グループで話し合いました。日韓の参加者はともに、継続的・持続的に担っていくことのできるアイデアを出し合いました。各グループで熱心に意見を出し合ったため、時間が足りなくなるほどでした。

ここで決まったアクションプランを軸にワークショップⅡ、Ⅲでの話し合いをさらに深めていきました。

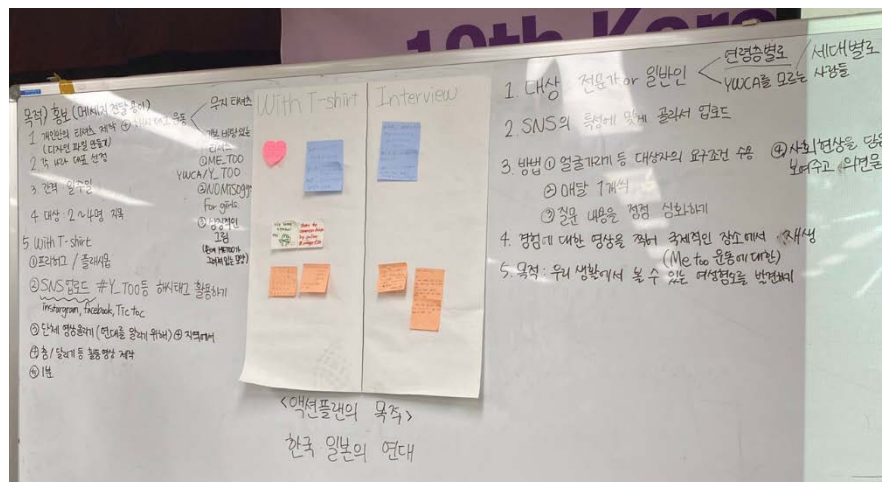
● アクションプラン原案（1日目の夜に日韓 YWCA の実行委員会で作成した原案）

1. #Metoo と書いてあるTシャツを着てマラソン
2. 日韓のYWCAのメンバーが#Metooやミソジニーに関連した共通の質問を準備しインタビューを行う
3. 無地のTシャツを準備し、#Metooやミソジニーに関連するメッセージを思い思いに書いて、リレーのように次の人に手渡し協力してTシャツのデザインを行う

● 追加意見（ワークショップ I で各グループから出された意見）

1. #Y_too ロゴ（YWCA と#Metoo をかけたオリジナルのハッシュタグ）を作成し、すべての活動で用いる
2. 個々人でそれぞれデザインの異なるオリジナルTシャツを1人1つずつ作ってみる
3. ファイル（資料）を作ってみる
4. Tシャツは原案の通り参加者全体で共通のものを一つ作成し、それに個々人が絵や文章を加えてオリジナルのものにする
5. （CSW にて用いることができるような）例えば横断幕など、アピールできるものを作成する

これらの追加意見を基に、同日の夜に日韓 YWCA の実行委員と参加者の有志が集い、アクションプランを最終化します。



ワークショップⅡ（CSW64（第64回国連女性の地位委員会）パラレルイベントの企画）

CSW とは UN Commission on the Status of Women、日本語で国連女性の地位委員会というジェンダー平等と女性の権利向上を目指す国連会議の略称です。CSW は毎年 3 月にニューヨークの国連本部で行われ、政府代表団と国連関係者に加え、世界中から多くの市民団体の代表団が参加し、テーマに沿った話し合いを行います。日本・韓国の YWCA から毎年若い女性の代表団を派遣して情報提供やメッセージの発信を行ってきました。

この CSW の場で、日韓の YWCA が共同でパラレルイベント（市民団体がテーマに関連して主催することができるイベント）を実施することになりました。今回の日韓ユース・カンファレンスでせっかくミソジニーと#Metoo をテーマに両国 YWCA のユースが共に学び、今後のアクションをつくろうとしているので、その一つの成果発表の場として CSW を用いることができると考えたことが背景にあったようです。日韓ユース・カンファレンスで得た私たちの学びを世界中のアクティビストに伝えるチャンスであり、そもそもジェンダー平等を目指す CSW の目的と、今回の日韓ユース・カンファレンスのテーマが一致しているため、このワークショップが重要になっていました。

ワークショップⅡでは、その 3 月 14 日に行われる CSW でのパラレルイベントの主題を決めるために、各グループでディスカッションと発表をし、その後、参加者全員の投票により主題を決定しました。

ディスカッションで出た案としては、以下の 6 つが挙げられました。

- SNS におけるミソジニー：SNS などの身近なメディアにおけるミソジニーについて分析し発表する。
- Effect of media on #Metoo between Korea and Japan: 両国での#Metoo がどのように取り扱われているかを発表する。また、日韓における#Metoo 運動に対するバックラッシュの違いについても発表する。また、どのように CSW（での議論）が現在の運動を改善することができるかを話し合いのも良いと思う。
- 世代別でのミソジニーの要素と現在の状況分析：両国における世代別のミソジニーの状況を分析し、発表する。
- Economy, Misogyny, #MeToo: 日韓の社会に共通する家父長制は、過去に日本軍「慰安婦」問題を生み出し、また現在の経済分野での男女格差にも関連性がある。家父長制と経済分野での課題の関連性を調べ、発表する。
- メディアによって刷り込まれるジェンダー規範の固定化：幼少期から人はメディアに晒されることでジェンダー役割が固定化される。メディアが与える社会への影響の問題提起と、反対にメディアにおける希望と思える事例を発表する。
- The regulation for banning women's commercialization: メディアの最大の問題は女性の性を消費する文化である。性的買春問題を根絶するための法的な解決策について話し合いたい。

投票の結果、「Economy, Misogyny, #MeToo」が選ばれました。この結果を参考にして CSW での発表内容を準備することになります。

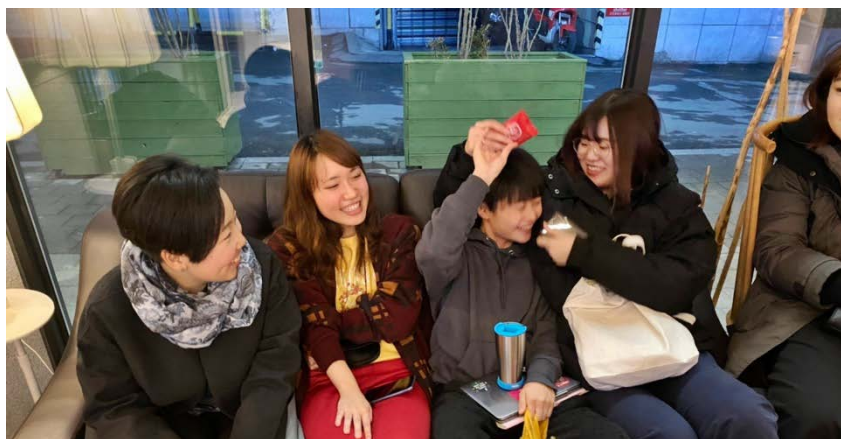


明洞探検

3日目は夕食後、夜に約1時間半ほど自由行動の時間がありました。韓国YWCAが用意してくれた4つの観光コースの中から選びました。1つ目と2つ目は夜景コース（歴史的・現代的の2つ）、2つ目は食べ歩きコース、3つ目はショッピングコースでした。

私はショッピングコースを選び、明洞の新世界百貨店やロードショップでお買い物をすることができました。ガイドとして案内してくれた韓国YWCAのメンバーの方がとても丁寧に道案内をしてくれたり、私たちのお買い物に付き合ってくれました。伝統的な夜景コースでは教会などの歴史的建造物を見に行きました。食べ歩きコースでは韓国のおいしい屋台料理などを楽しみました。

この4日間、ジェンダーをメインに真面目な話をする機会が多かったですが、つたない韓国語や英語を使いながら楽しい一時を過ごすことができグッと距離が縮まった気がしました。日韓というふたつの国は様々な権力や歴史に翻弄された過去がありますが、ユースの若い力で温かい交流を育むことができました。





ワークショップⅢ（アクションプランの決定・次回のテーマ決め）

(1) アクションプラン（行動計画）の最終化

ここに至るまでの4日間、私たちはディスカッションやフィールドワークを通じてさまざまな形の「ミソジニーと #me too 運動」を実際に自分たちの目でみてきました。性平等図書館ヨギの見学、戦争と女性博物館の見学、明洞でのミッションチャレンジなど。その他にもこの4日間すべての瞬間に刺激を受けました。

次はこの4日間で吸収したことをアウトプットする番。

ワークショップⅢでは、ワークショップⅠでの決定事項を基に策定された今後取り組むアクションプランが発表されました。

なお、アクションプランの詳細に関しては前日の夜に行われた日韓 YWCA の運営会議（日韓実行委員+有志の参加者数名が参加）にて、継続的かつ現実的に行動を続けていけるよう話し合いを持ち、アイデアを決定しました。

今後取り組むアクションプランは下記の通りです。



↑ワークショップⅢの様子

日本 YWCA ・ 韓国 YWCA 合同行動計画

<概要> Tシャツを作成する。デザインは、表面に「手のイラスト」（各自の思いに合わせて、それぞれが手の中に #metoo や #with_you を手のひらに書き入れる。#Metoo、#With_you と声を挙げているイメージ）、袖の部分に「#Y_too movement 2020+」、「日本 YWCA と韓国 YWCA のロゴ」を入れる。その Tシャツを着た写真と合わせて「何故自分が #metoo 運動に参加・支持するのか」というメッセージを、日韓 YWCA の facebook ページに投稿する。（Tシャツの作成にあたり、ステッカー販売などできる形でファンドレイジングを行う。）

<ビジョン> SNS で、#Metoo/ #Y_too/ #With_you 運動を広め、ミソジニーまたはジェンダー問題への関心を高めること。

<目標>

- 短期目標：3月14日（土）までに日韓両国から19回ずつ、合計38回の投稿を行う。3月14日はCSW64（第64回国連女性の地位委員会）中に、日韓 YWCA が合同でパラレルイベントを主催する日程。19回という数字は日韓ユース・カンファレンスが今回で第19回目を迎えたことに由来。
- 中期目標：2020年8月31日を期日とし、上記の内容の投稿を、各国で100回以上行うことを目指す。
- 長期目標：2020年12月を期日とし、上記の投稿に各国で200人以上の参加を目指す。その投稿写真を繋い

だものをまとめた動画を作成し、世界 YWCA のウェブサイトに掲載する。

日本 YWCA 側参加者の行動計画

<概要> 上記キャンペーンの一環として、T シャツやバッジを作ったり、講演会や日韓ユース・カンファレンスの報告会、ディスカッションなどを含めたイベントを、参加者それぞれの地域で開催する。必要に応じて全国 24 地域にある地域 YWCA と連携する。

<ビジョン> ジェンダー平等に向けた啓発を行うこと。

<目標> イベントの様子を写真や動画に撮影し、日韓 YWCA の facebook を通して発信していく。

韓国 YWCA 側参加者の行動計画

<概要> インタビュー動画を作成する。CSW64 の参加者や日韓ユース・カンファレンスの参加者など、使用言語が異なる 8 名を対象に、4~8 つの質問を行う。最初の質問は「ミソジニーについて知っていますか？」といったライトなものにし、質問の内容を徐々に濃く、深いものにしていく。

<ビジョン> 若者がミソジニーに対して率直にどう考えているのかを把握し、動画にして周知すること



アクションプラン朗読の様子→

(2) 第 20 回日韓ユース・カンファレンスのテーマ決め

日韓の参加者全員で、次回の日韓ユース・カンファレンスで扱うテーマについて話し合いました。参加者の中から沢山の意見があがりました。

今回の日韓ユース・カンファレンスのテーマは「ミソジニーと日韓 #Metoo 運動 東アジア女性たちの連帯に向けて」でした。今回で学んだことを活かし、女性を取り巻く環境についての学びをより深めたい、このテーマについてさらに日韓で話し合うべきだ、という意見があがりました。今回のカンファレンスでは様々な角度から女性が直面する課題について話し合いましたが、今回のカンファレンスで韓国側の参加者には男性がいるが、日本側の参加者には男性がいないことを受け、女性にとって生きやすい社会をつくるということは男性にとっても生きやすい社会になる、ということを知ってもらいたいという強い日本側参加者の意見により、「フェミニズムにおける男性の参加・役割」について考えたいという声もありました。また、世界各国で起こっている「気候変動と女性に与える影響」につ

いても、地理的に近いからこそ日韓で協議すべきではないかという意見も出ました。世界各国で生じている問題の一つである「移民問題」（特に 2020 年のオリンピックに向けて移民政策は厳しくなっている）、最近日本では入管法の改正によって注目されている「外国人労働者」について（特にアジアで多く見られる家事労働者を取り巻く問題について）。福島第一原発事故も未だ終息していないことを考え、核兵器も原子力発電も含む「脱核運動」について。朝鮮戦争や日本が韓国に行った植民地支配の歴史を踏まえた上で「戦争犯罪・戦争責任」について。「日韓の歴史教科書」に載っている戦争に関する記述の違いについて、など今回のカンファレンスのテーマとは違った観点から世界を良くしていくために話し合うべきテーマも多くあがりました。他にも日韓ユース・カンファレンスの参加者の年齢よりも小さい子供たちを取り巻く問題である「朝鮮人学校や在日コリアン」についてなど、日韓の参加者だからこそ話し合うべき問題も多くあがり、様々な面で日本と韓国は関りを持っていて、共有すべき問題が多くあることを強く感じました。

一通りの意見が出そろったところで多数決によって次回のテーマを決めることにしました。多数決の結果、次回のテーマは「LGBTIQ+と宗教」に決定しました。近年あらゆる国で、急速に性の多様性が話題となっていると思います。しかし、多様な性を「認識」する国が増えている中で、宗教を理由に性の多様性を認めないケースも未だに多く存在し、また、まだまだ同性愛を罰則対象とする法律を有する国もあります。それにより多様な性のあり方を否定する考えを持つ宗教社会に身を置いている場合、当事者は常に危険に晒される生活を余儀なくされています。日本と比較し、韓国にはキリスト教徒、仏教徒の人々が多くいると言われています。また、YWCA はキリスト教基盤の団体です。だからこそ、さまざまな信仰を持つ参加者が集まる YWCA のプログラムで、このテーマを取り上げ、話し合うことに意義があるのではないのでしょうか。

日韓ユース・カンファレンスのように、日本・韓国というそれぞれの国の社会をこれから担う若い私たちが話し合う機会はそうそう持てるものではありません。そのため、次回のカンファレンスの貴重な時間ではどんなテーマで話し合うべきかととても悩みました。沢山の意見が出ている中から一つに絞ることはとても大変な作業でした。次回の日韓ユース・カンファレンスもそれぞれ両国の参加者がテーマについて一緒に悩み、一緒に考えることで東アジアを良い未来へと変えていく素晴らしい時間になるでしょう！



参加者の「声」

韓国には旅行で何度も訪れたことがあるが、性平等図書館や戦争と女性博物館には初めて訪問しました。江南駅殺人事件や日本軍慰安婦問題については、日本で得られる知識のみしか勉強してこなかったので、韓国でのリアルな学びができたことは私自身とても勉強になりました。また、勉強するだけでなくアクションプランを作成、実行することができたので次への一歩として社会変革が起これたらいいなと思います。

参加してみて嬉しかったことは、思う存分勉強できて、それまで感じられなかったことにたくさん気付かされたことだ。もともとジェンダーの問題に関心があったが今回のカンファレンスに参加するまで、日本軍慰安婦の問題と自分との接点が分からず正直詳しく知ろうとしていなかった。日本人のフェミニストが、日本国内の問題を扱うとともに慰安婦問題について発言することにも、国内の問題を置いてどうしてだろう、と思っていた。しかしカンファレンスに参加してみて、日本軍慰安婦の問題は性暴力であると同時に構造的な暴力であることがわかった。それを理解した時にやっと私は自分と日本軍慰安婦の問題が繋がった気がした。日本でミソジニーに抵抗すること、フェミニストであることは、単に女性蔑視的な思想と戦うことではなく、社会の中の権力の圧力と戦うことも意味していると思う。それは加害者と被害者、マジョリティとマイノリティといった構造の話（しかしお互いの関係はテーマによって入れ替わるだろう）ということもできる。日本で小さな存在として大きな存在に声を上げる私と、韓国から日本政府を相手に声を上げるハルモニたちは構造として同じであり、彼女たちが声を上げる姿勢に深く深く共感し励まされた。被害者と加害者についても考えさせられた。日本でフェミニズムを勉強する分には、女性である私はミソジニーによる被害者意識が強かったが、カンファレンスに参加してみて、自分の国が過去にしたことの加害性、そして日本人としてその加害と向き合うことの必要性に気づかされた。被害者あるいはマイノリティという立場と、加害者もしくはマジョリティという立場はそのテーマ、時代、出来事によって入れ替わり、常に被害者であったり、絶対的な加害者であったりという存在は無いのだと感じた。誰だっどどちらにもなりえて、でも加害者側になって誰かを傷つけてしまった時（傷つけないようにするのが1番ではあるが）は、その時々で考えを改め、素直に謝ることが大切だと感じた。また加害者側である日本人に対してもオープンな韓国の姿勢に感動した。私は日本がしたことに対して責められてもしようがないと思っていたし、そのことで何か言われるだろうと思っていた。しかし実際に韓国へ行ってみて感じたことは、真剣に問題に向き合おうとする時、韓国では日本人に対しても平等に知ることへの扉は開かれている、ということだった。おかげで韓国へ行ってきたさんのことを学ぶことができたし、実際に体験しなければわからない経験もできて嬉しかった。自分がどれだけバイアスのかかった日本のメディアの影響を受けていたかということもわかった。私たちユースは戦争を知らない世代だけれど、知らない世代だからこそ築ける平和の可能性というのも強く感じた。戦争や慰安婦問題の悲惨さを伝えていくと同時に、今の世代だからこそできる対話、というのも存在しているのだと思った。

今まで生きてきた時間の中で1番濃く、充実した時間だった。行ってよかったと心の底から思う。

ミソジニー、フェミニズム、慰安婦、などさまざまな角度からジェンダー問題について考える良い機会になりました。韓国Yの参加者、そして現地の人との意見交換を通じて新しい視点を得ることができました。私は普段からジェンダー問題について周囲と話し合うことはあまりなかったですが、今回のカンファレンスを契機に、積極的にそういった話を周囲に持ち掛け、身近なところでの意見交換もしたいと思いました。

自分にとっての当たり前は相手の当たり前ではないように、自分にとって正しいと思っていた考えが相手にとっては必ずしも正しいとは限らないという当たり前のことに気がつき、改めて自分の意見を伝えるだけでなく相手の考えも考慮し、お互いが納得いく答えを出すことの大切さを学ぶことができました！

非常に勉強になった。私自身が性暴力のサバイバーであり、その経験をずっと自分の中の負い目というか、汚点として感じていたけれど、戦争と女性の歴史博物館で目にした、ハルモニの I want to be a hope for women suffering from the same pain to mine という言葉を見て、私の経験をネガティブな方向のみで引きずり続ける以外の、体感した人間だからこそそのポジティブな方向への転換ができるのではないかと感じられた。例えば #MeToo 運動はサバイバーや当事者のみにしか参加できないが、#WithYou 運動ならば誰でも参加ができるし、私のようなサバイバーにとっては近くで支えてくれる人がいるということがわかるだけですごく助かる。こういった気付きができたことは私がサバイバーであるからこそなのではないかと思ったので、自分の体験を昇華できた感覚があった。

最初参加するかとても迷いましたが、大学で習ったことの集大成として生かせると思い参加して良かったと思っています！

私はすごく韓国の文化や音楽などが好きで、いつも旅行に行きたいと思っているし、もちろん友達も多いので韓国には良いイメージもあります。また悪い面もあると日本人の立場として考えていました。日本のメディアを見ていると、どうしても協力的にお互いが行動することとはできないのではないかと考えていました。今回のカンファレンスでは、慰安婦問題について触れる機会があり、両国の中ですごくセンシティブな話題だったので、どのように自分が考えたりするのか、どんな風に韓国のユースたちは考えているのか怖いと思っていました。実際に参加してみると、「女性に対して性的な暴力を振るっても良い」「女性に対して性的な欲求を欲して当たり前」といったような、女性の人権を無視するような考え方・ミソジニーという概念と私たちは戦っていると感じました。そしてその概念の最たるものが日本軍による従軍慰安婦であると思いました。

さらに、日本では歴史のことは過去のことであり、今現在の事柄と結びつけて考えることは普通ではないように思います。そのような教育ではないという現実があります。私は、過去と今を切り離しながら考えていた人の一人でしたが、このカンファレンスに参加して、慰安婦として被害にあい苦しみ続けてきた女性たちに謝れない、その姿勢そのものが現代の性犯罪が軽視されていることにそのまま受け継がれていると感じました。その風潮があるから私たちは、戦争のことについて学べる機会が少なくおもいます。特に従軍慰安婦について学べないと思いました。私は、このようなシステムの中で自分がずっと教育を受けてきてことが恥ずかしいと思いました。そして、多くの人がこの事実気づけていないことも事実なのが悔しく悲しいです。自分自身の慰安婦問題についての考え、そして現在のミソジニーについての考えもすごく深まりました。今回のカンファレンスに参加していなければ気づけなかったことだとも思います。本当に貴重な経験をさせて貰いました。ありがとうございます。

より深くジェンダーのことについて考え、仲間と共有することで楽しかったです。

今回日韓ユース・カンファレンスに参加して、韓国のユースメンバーたちとジェンダーの問題について一緒に向き合い、様々な情報を共有し議論をすることができ、とても貴重な経験となった。日本にいただけでは知ることができない、韓国社会の現状や、慰安婦問題に関する韓国側の認識などを知ることができ、これまでは考えてこなかった視点を多く得ることができた。特に、ジェンダー問題や性暴力の問題は社会の問題であるが、同時に実際に被害者がいて個々のストーリーのあるパーソナルな側面があり、今回のカンファレンスではその両方にじっくりと目を向けることができたのが大きな収穫だったと思う。韓国と日本の似ている点も多く発見できたり、また日本が韓国社会から学ぶことのできる点もあり、学んだことを自分の中でしっかりと噛み砕きながら、今後の生活や活動の中で活かしていきたい。



フィールドワーク先について

(1) ジェンダー平等図書館“Yeogi”について



Gender Library

The Gender Library collects, catalogues, displays, conserves and provides materials and information required for research and activities in gender equality and family issues.

The Gender Library aims to serve as a gender equality platform with exhibitions, seminars, and programs incorporating gender equality policies and materials from the field to record and remember women's history.



The Library opened in July 2015 with approximately 13,000 donated collections including women's organizations and civilian activity source books, Seoul Metropolitan's policy booklets, monographs, periodicals, research reports, posters, and souvenirs and is continuously expanding the collection scope through continuous collection activities.

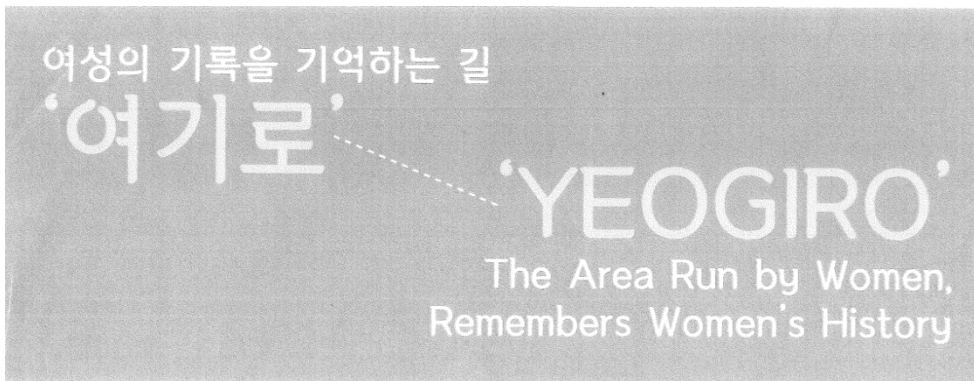
The Gender Library was built as a "larchiveum" that combines the function of a library, archive, and museum in approximately 860 square meters on the second floor of the Seoul Foundation of Women and Family. The Library has a separate space dedicated for exhibitions, reading, seminars, and a gallery and offers a wide range of services utilizing the sound facility.

To date, the Library has provided approximately 29,000 visitors with new experiences including opportunities to borrow materials, participate in educational opportunities and exhibitions etc.. The Library has contributed to instill the gender equality culture by exchanging data with over 90 relevant domestic and international women's organizations and institutions, and receiving donation materials from over 110 individuals.

We hope patrons spend meaningful and commemorative moments recording and remembering women at the Gender Library 'HERE' where the past, present, and future are connected.

(As of December 2018)





#1. '강남역 여성 살해사건' 추모 기록 역사화 Historicize the Gangnam station murder case

Seoul Foundation of Women & Family has been pushing ahead with organizing the documents of Gangnam station murder and turning 'YEOGIRO'(literally means 'Here'), the area run by women for women, into a memorial site to provide a reminder for our society.

The crime occurred at 1 a.m. May 17, 2016, at a restroom near the 10th exit of Gangnam station. In the event, a man killed an unknown 23-year-old woman. It was a typical hate crime. The criminal said, "As women ignored me, I was so angry to kill her." When news reports broadcasted, many people attached Post-it notes to commemorate the innocent victim in many cities, including Busan and Gwangju, not to mention the 10th exit of Gangnam station in Seoul. On May 23, 2016, the Post-it notes in Gangnam station started to send to Seoul Foundation of Women & Family, and such notes in other places were gathered and sent to 'YEOGIRO' to record and analyze.

The notes are more than 35,000 from nine cities, including Seoul, Busan, Gwangju, Daegu, Daejeon, Cheongju, Ulsan, Jeonju, and Bucheon. They showed the mourning for the victim, the sympathy and anger of the fact that any socially weak people may become a target of such hate crimes.

Seoul Foundation of Women & Family plans to document such events, push for joint researches on them, and preserve related documents.



(2) 韓国 YWCA 会館の歴史博物館”jie”について



History of KOREA YWCA

1922 ~
1940

Hold a Torch

- National YWCA of Korea establishment
- First Council (1922)
- Rural Area Enlightenment Movement
- Eradicating illiteracy Movement
- Movement to abolish premature marriage and licensed prostitution

1941 ~
1945

Suspension of KOREA YWCA Due to war between KOREA and JAPAN

1946 ~
1960년

Hold out Hands

- Teaching agricultural technologies
- Started boarding schools for girls
- Youth movement got active through Y-teen and Youth YWCA
- Marriage Registration Movement

1961 ~
1980

Stand on Women's own Feet

- Held meetings with corporates to improve working women's condition
- Volunteers for rural women
- Human right movement for low-income women in cities
- Started nurseries for working women
- Patriarchal law abolition movement
- Developing new occupation for women

1981 ~
2000

Look at ourselves

- Started to run center for protection of consumer rights
- Movement for the abolish of torture system and the prevention of tear gas usage
- Movement for practicing sound daily lives
- One Nation Woman Council
- North and South Human Chain and Sending milk powder to the North Korea Movement
- Exchanging goods Movement

2001 ~
2010

Walk Together

- Movement to prevent school violence and violence against women
- Movement for immigrant women
- Youth program such as leadership, financial education, ICT, and diversity appreciation, etc.
- YWCA peace prayer movement

2011 ~
2019

Go Down a New Road

- Denuclearization Movement with 'Day of Fire' Campaign
- 100,000 members signing petition to stop Gori 1st nuclear power plant
- Equal Pay Campaign to reduce the gender payment gap
- YWCA Women Peace Pilgrim



한국YWCA연합회

Young
Women's
Christian
Association

Mission Statement

YWCA of Korea aims to help young women confess God the Creator and the Lord of history, recognize the sister/brotherhood of all humankind in God and build an inclusive world where justice, peace and integrity of creation are promoted and sustained through the practice of the teachings of Jesus Christ into one's life

Wind of Life, Women Saving the World



52 Local YWCAs



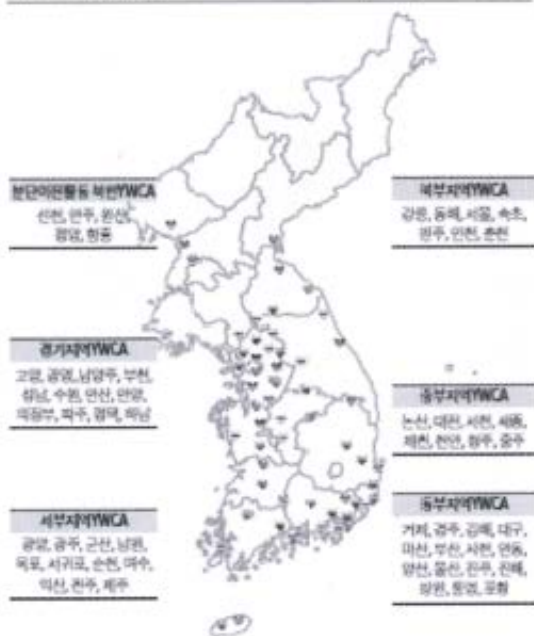
92,317 members



260 subsidiary facilities



3,484 volunteers
2,395 staffs



National YWCA of Korea

Hold a Torch

the Christian women who lit a torch for the independence of their country and the liberation of women during the dark days of Japanese colonial rule.

1922년 ~ 1940년

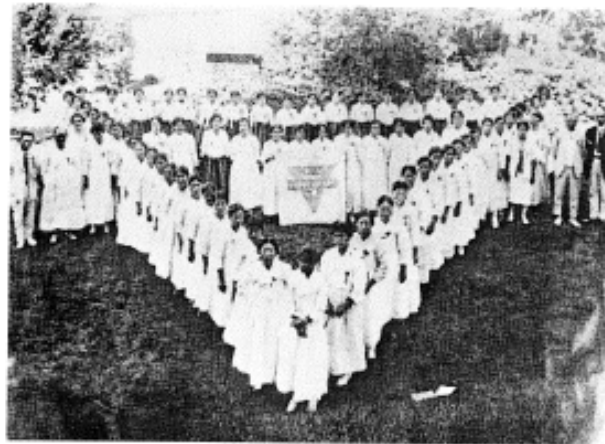


A campaign to abolish premature marriage and licensed prostitution



The foundation statement of KOREA YWCA

(1st meeting for the formation on March 27th, 1922)



Convention for organizing KOREA YWCA

While Korea was under Japanese colony, women suffered from the patriarchal system at the same time in Korea. To release Korean women from the double repression, they thought to establish Korea YWCA the first important thing to do at that time.



Early activists of KOREA YWCA
Ones who volunteered to establish KOREA YWCA on March 27, April 20, May 4, 1922.

From the second person at bottom left: Esther Hong, PhilRye Kim, Genso, Mel Lauren (Australian missionary), HwalRan Kim, Esther Hwang



Woman Labor Night Academy

It was established by Seoul YWCA in order to eradicate illiteracy. It was for poor women who worked at other people's houses, textile factories, and rubber factories.



Rural Area Enlightenment as a Independence Movement

At the beginning of 1930, Yong Shin Choi was dispatched to rural area. She built a school targeting women and children.

1941~1945

Suspension of KOREA YWCA

Due to the suppression by Japan at the end of the colonial time KOREA YWCA was affiliated to Japan YWCA and eventually closed down at 1942

Hold out Hands

Caring touch that
healed the wound
caused by division of
the nation and war.

1946년 ~ 1960년



Relief Work for Women and Orphans in War

While Korea was recovering after the independence, the war between North and South Korea started. YWCA helped the widows and children in Busan, a refuge.



"YWCA is not a building but it represents people. It is important to change people. The most important thing is to get rid of self-centered thoughts and to be volunteer to help our neighbors and the society."

-Esther Park



International Training

National YWCA of Korea allowed study abroad opportunities to staffs in order to foster global leadership among young women.

혼인신고하라!
혼인신고 않으면 아내가 아니다



대한YWCA연합회
사회문제부

Marriage Registration Movement

In the 1950s, because women did not register their marriage, they could not resist being abandoned by their husbands. The Marriage Registration Movement of KOREA YWCA changed Korean woman recognition successfully, and it was reported to World YWCA and UN Commission on the Status of Women.

Stand on Women's own Feet

Standing feet for women's self-reliance, casting off the restraints of oppression.

1961년 ~ 1980년



Recreation Program

There were recreational programs such as singing and games during YWCA programs. These programs gave joy and hope together with a sense of community to the working women who were not appreciated properly.



Housekeeper Examination

YWCA first introduced the concept of a 'housekeeper' for women who worked for a certain period of time instead of calling them 'maids' who were belong to the family they worked for. YWCA trained the women by developing curriculum.



Groundbreaking Ceremony of National YWCA of Korea's center

National YWCA of Korea built a new center at 1-1 St. of Myeongdong in 1967 through the fund collected inside and outside of the country. The center became a foundation for independence and a space for the women.



Girl's House - the Commencement of Vocational Training

Girl's House opened in Huam-dong in 1961. 50 women stayed at this house which was a two-storey house (562 sqm) and worked during the day and studied flower arrangement, cooking, Japanese and English at night.



Improvement of Women's Employment Conditions

As low income, lack of welfare, and hygiene problems for working women rose to the surface as a social problem, YWCA carried discussions with corporate managers for the improvement of treatment on women in the workplace. In 1965, those requirements slowly fulfilled by changing public's opinion. YWCA researched the dormitory and working conditions targeting 1,000 women conductors



Seminar on the Revision of Family Movement

As gender discrimination became widespread due to the patriarchal family system, which defined male-centered succession, the Korea YWCA launched a family law revision campaign in 1973 in solidarity with 27 women's organizations. A campaign was launched to send 10,000 letters to lawmakers.



Y-Teen Activities

Y-Teen focused on programs where people would grow physically and spiritually as they carried out programs such as worship service, volunteering, fellowship, social movements and fundraising, etc.



Developing new occupation for women

Occupations such as wall paper works, tiling, and painting used to be recognized as "something only men can do". YWCA actively trained women to do the three jobs and changed the recognition that women can do better at the jobs. At that time, women, whose wage was only a fourth of men's in the field, eventually gained the same wage as men.



Union Leader Training

In order for the labors to have dignity and equal human rights, YWCA held a "Peace Class" in 1972 for union leaders as a night school. It was a training to raise awareness for the labors' human rights.



Loot at ourselves

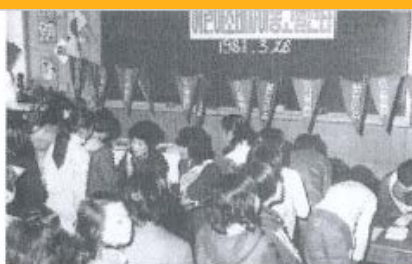
Eyes that look beyond me and see us for the sake of a just and peaceful world.

1981년 ~ 2000년



Opening of the 'Center for Working Women'

YWCA opened 'Center for Working Woman' in Seoul, Gangju, and Busan YWCA in 1993. YWCA actively carried programs that train women in different occupations and provided employment opportunities allowing economic independence.



The Consumers Movement as Human Rights Movement

YWCA Consumers Movement became more active in 1970s. This, in the 80s, was expanded as a human right movement and eventually led to the enactment of Consumer Protection Policy.



Movement for the Abolish of Torture System and the Prevention of Tear Gas Usage

In order to remove the torture system which threatened society's peace and violate human right, YWCA members sent suggestive documents to government officials and held numerous symposiums.



'Ah-Na-Ba-Da' Movement

It first started from YWCA as it promoted to recycle products by conserving, sharing, exchanging, and reusing goods. It started with the aim to save the earth from environment pollution and sound spending culture. It was voluntarily participated by the members.



Nursery for Working Women

As the working women increased, YWCA started a nursery which is a former version of daycare center. It started from Incheon and now 47 YWCAs are running daycare centers.



Hosting YWCA World Council

In 1995, YWCA celebrated its 100th anniversary and held a World Council in Seoul with the title of "Forward With Vision". There were about 1,000 people including representatives from 90 countries and the staffs from in and out of the country.



North and South Human Chain and Sending milk powder to the North Korea Movement

YWCA, which have been praying and fundraising for the reconstruction of YWCA in North Korea since 1985, participated in the Human Chain program in August 15, 1993. Since 1996, the fundraising movement sending to milk powder to North Korean children has been continued so far.

Walk Together

Powerful step to
embrace each other
and walk forward with
one's neighbors

2001년 ~ 2010년



One Nation Woman Council

YWCA, which hopes for peace in the Korean peninsula, held the 1st One Nation Woman Council at YeonByeon in 1994. It held its 2nd council in New York, in 1996, and it held its 3rd one in Mt. Baekdu in 2013. So far, YWCA has been walking toward peace in the Korean peninsula.



Signing Campaign to prevent distortion of Japanese History Textbook

In April 3, 2001, YWCA expressed its position to prevent distortions in Japanese history textbooks in the name of 90,000 members across the country. YWCA also launched a 1 million signature-collecting campaign for this issue.



Loving Life Community Movement

YWCA throughout nations collaborated to make small communities called as "Mindle-le(dandelion)" whose members practice serving, sharing, and living in their lives since 2005.



Woman Leader Award for the Discovery of Woman Leadership

Since 2004, National YWCA of Korea has been awarding women who have contributed to the Korean society in order to acknowledge and spread their deed.



Abolition of Patriarchy Movement

KOREA YWCA pioneered the movement to abolish patriarchy system with other woman organizations. Patriarchy was abolished in 2005 by women's power.



Think Money, Youth Financial Leadership Education Program

Korea YWCA started Think Money, a project that allows healthy perspective of money for the teenagers and for them to have good spending habits.



Multicultural Movement for Women who are immigrated by marriage

Korea YWCA has implemented programs for the multicultural family. It includes researching for the difficulties of multicultural family, teaching Korean, adapting, employment training for migrant women. In addition, it held job fairs and supported small groups. It also held campaigns to raise awareness for the Korean society to accept the diversity.

Go down a New Road

To look past and move
toward living road again,
“Go Back, Go 100!”

2011년 ~ 2019년



Go Back, Go 100!

In 2017, National YWCA of Korea held its 95th anniversary ceremony as it looked back on ourselves in the history and to march towards our vision for tomorrow.



Gender Equality Movement

National YWCA of Korea is holding movements enhancing economical empowerment for women, expanding women participation improving woman leadership, preventing woman violence and spreading gender equal awareness and culture.



Denuclearization Movement

Korea YWCA greatly contributed to the suspension of Gori nuclear power plant in 2015. This was through the petition of 100,000 members who urged the suspension of power plants that destroy the environment and life. The 'Denuclearization, Day of Fire' campaign is being done since 2014 to raise awareness about the danger of power plans and the importance of using equal and safe energy such as renewable energy.



Peaceful Unification Movement

Since 2015, Korea YWCA has partnered with about 30 woman institutions in and out of Korea in order to hold Woman Peace Walking program. YWCA is promoting this movement that aims for a peaceful era in the Korean peninsula and East Asia.

